

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年3月29日
【四半期会計期間】	第34期第3四半期（自平成22年11月16日 至平成23年2月15日）
【会社名】	株式会社銚子丸
【英訳名】	Choushimaru Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 堀地 速男
【本店の所在の場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 大塚 健一
【最寄りの連絡場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 大塚 健一
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第3四半期 累計期間	第34期 第3四半期 累計期間	第33期 第3四半期 会計期間	第34期 第3四半期 会計期間	第33期
会計期間	自平成21年 5月16日 至平成22年 2月15日	自平成22年 5月16日 至平成23年 2月15日	自平成21年 11月16日 至平成22年 2月15日	自平成22年 11月16日 至平成23年 2月15日	自平成21年 5月16日 至平成22年 5月15日
売上高(百万円)	12,148	13,230	4,309	4,556	16,475
経常利益(百万円)	790	913	334	352	977
四半期(当期)純利益(百万円)	432	456	183	189	525
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)					
資本金(百万円)			315	315	315
発行済株式総数(千株)			2,903	2,903	2,903
純資産額(百万円)			3,358	3,868	3,451
総資産額(百万円)			6,079	6,876	6,339
1株当たり純資産額(円)			1,156.56	1,332.29	1,188.59
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	149.12	157.27	63.09	65.34	181.13
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)					
1株当たり配当額(円)					13.50
自己資本比率(%)			55.2	56.3	54.4
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	673	471			1,101
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	291	236			423
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	148	140			8
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)			2,457	2,971	2,596
従業員数(人)			417	466	468

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期会計期間において当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 3【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 4【従業員の状況】

提出会社の状況

平成23年2月15日現在

従業員数(人)	466 (944)
---------	-----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員(1日8時間換算)を  
( )外数で記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当社は、一般顧客（最終消費者）へ直接販売する飲食業を行っておりますので、生産実績は記載しておりません。

#### (2) 受注状況

当社は、一般顧客（最終消費者）へ直接販売する飲食業を行っておりますので、受注状況は記載しておりません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（千円）	前年同期比（％）
グルメ回転寿司事業	4,556,374	105.7

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 平成23年2月15日現在の店舗数は、75店舗（千葉県内29店舗、東京都内26店舗、埼玉県内15店舗、神奈川県内5店舗）であります。

### 2【事業等のリスク】

当第3四半期会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載事項及び本頁以外の記載事項は、特に断りがない限り本四半期報告書提出日現在の事項であり、将来に関する事項は同提出日現在において当社が判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、企業収益が回復基調にあるなど一部明るい兆しはあるものの、デフレ状況の継続に加え為替相場の変動に対する警戒感が根強く、依然として先行きの不透明感が払拭されない状況となっております。個人消費につきましても、雇用環境や所得環境が本格的な回復には至らず、依然として生活防衛意識や節約志向が続いております。

このような状況において当社は、経営理念「私達の『真心』を提供しお客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します」の下、「良質な食材をより安く、よりおいしく」というメニュー開発や仕入ルートの新規開拓など「おいしい舞台」をさらに深化させるとともに、「親切・思いやり・誠実さ」のある接客サービスにより「おもてなしの舞台」を追求するなど、競合他社とは一線を画した商品・サービスの差別化に努め「すし銚子丸」ブランドの一層の強化を図りました。

店舗開発につきましては市場規模、ならびに顧客ニーズを勘案し、当第3四半期会計期間において大井店（平成22年12月）及び木更津店（平成23年1月）を新規に出店し、当第3四半期会計期間末の店舗数は75店舗となりました。

販売促進につきましては、「今年も全てに感謝」「寒空に月一輪」等、時節の旬の食材によるイベントの開催およびセットメニュー・サイドメニューの充実を図り、お客様の来店動機の高揚に努めてまいりました。

以上の結果、売上高45億56百万円（前年同四半期比5.7%増）、営業利益3億48百万円（同5.9%増）、経常利益3億52百万円（同5.6%増）、四半期純利益1億89百万円（同3.6%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ5億36百万円増加し、68億76百万円（前事業年度末比8.5%増）となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動資産は、前事業年度末に比べ3億58百万円増加し、38億1百万円（同10.4%増）となりました。増加の主な内訳は、現金及び預金の増加3億75百万円であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ1億78百万円増加し、30億75百万円（同6.2%増）となりました。これは主に、新規出店による店舗設備、敷金及び保証金の増加によるものであります。

### (負債・純資産)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ1億19百万円増加し、30億8百万円（前事業年度末比4.1%増）となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動負債は、前事業年度末に比べ59百万円減少し、23億30百万円（同2.5%減）となりました。減少の主な内訳は、短期借入金が2億10百万円増加した一方で、未払金1億2百万円、未払法人税等1億25百万円がそれぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1億79百万円増加し、6億77百万円（同35.9%増）となりました。これは主に、第1四半期会計期間より資産除去債務に関する会計基準を適用し資産除去債務が1億52百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ4億17百万円増加し、38億68百万円（同12.1%増）となりました。これは主に、四半期純利益4億56百万円を計上した一方で、第33期の期末配当金39百万円を計上したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前四半期会計期間末と比較して3億37百万円増加（前年同期は2億55百万円の増加）し、29億71百万円となりました。

当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は3億18百万円（前年同期は2億80百万円の獲得）となりました。主な内訳は、税引前四半期純利益3億52百万円、減価償却費64百万円、仕入債務の増加1億17百万円などによる資金の獲得、法人税等の支払額2億32百万円による資金の使用であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は90百万円（前年同期は1億6百万円の使用）となりました。主な内訳は、新規出店による有形固定資産の取得による支出90百万円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は1億8百万円（前年同期は81百万円の獲得）となりました。主な内訳は、短期借入れによる純収入1億20百万円であります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第3四半期会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期会計期間において、前四半期会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、改修が完了したものは次のとおりであります。

##### イ. 新設

事業所名 (所在地)	店舗数	セグメントの名称	設備の内容	投資額(千円)	完成年月	完成後の増加能力 (席)
すし銚子丸店舗 (東京都品川区)	1	グルメ回転寿司	店舗設備	55,257	平成22年12月	81

- (注) 1. 投資額には、差入保証金10,000千円を含んでおります。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

事業所名 (所在地)	店舗数	セグメントの名称	設備の内容	投資額(千円)	完成年月	完成後の増加能力 (席)
すし銚子丸店舗 (千葉県木更津市)	1	グルメ回転寿司	店舗設備	78,299	平成23年1月	72

- (注) 1. 投資額には、差入保証金6,000千円を含んでおります。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

##### ロ. 改修

事業所名 (所在地)	店舗数	セグメントの名称	設備の内容	投資額(千円)	完成年月	完成後の増加能力 (席)
すし銚子丸店舗 (千葉県松戸市)	1	グルメ回転寿司	店舗設備	20,799	平成22年11月	0

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

事業所名 (所在地)	店舗数	セグメントの名称	設備の内容	投資額(千円)	完成年月	完成後の増加能力 (席)
すし銚子丸店舗 (千葉県山武郡 横芝光町)	1	グルメ回転寿司	店舗設備	25,917	平成22年11月	0

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

前四半期会計期間末において計画中であった重要な設備の新設について、完了予定が延長する見通しとなったものは次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	店舗数	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力 (席)
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
すし銚子丸店舗 (東京都調布市)	1	グルメ回転寿司	店舗設備	69,414	23,000	自己資金	平成23年3月	平成23年4月	72

- (注) 1. 投資額には、差入保証金23,000千円を含んでおります。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,800,000
計	10,800,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年2月15日)	提出日現在発行数(株) (平成23年3月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,903,600	2,903,600	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,903,600	2,903,600		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成22年11月16日～ 平成23年2月15日		2,903,600		315,950		236,829

#### (6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりませ  
ん。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間の末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年11月15日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年11月15日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 200		
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,902,800	29,028	
単元未満株式	普通株式 600		
発行済株式総数	2,903,600		
総株主の議決権		29,028	

【自己株式等】

平成22年11月15日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済み株式総数に対 する所有株式数の割合 （％）
(株)銚子丸	千葉県美浜区浜田 二丁目39番地	200		200	0.00
計		200		200	0.00

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月
最高（円）	2,700	2,565	2,510	2,377	2,450	2,430	2,278	2,260	2,340
最低（円）	2,395	2,480	2,250	2,210	2,301	2,230	2,232	2,236	2,200

（注）最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ市場におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。



## 第5【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号、以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期会計期間（平成21年11月16日から平成22年2月15日まで）及び前第3四半期累計期間（平成21年5月16日から平成22年2月15日まで）は、改正前の四半期財務諸表等規則に基づき、当第3四半期会計期間（平成22年11月16日から平成23年2月15日まで）及び当第3四半期累計期間（平成22年5月16日から平成23年2月15日まで）は、改正後の四半期財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期会計期間（平成21年11月16日から平成22年2月15日まで）及び前第3四半期累計期間（平成21年5月16日から平成22年2月15日まで）に係る四半期財務諸表並びに当第3四半期会計期間（平成22年11月16日から平成23年2月15日まで）及び当第3四半期累計期間（平成22年5月16日から平成23年2月15日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年2月15日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月15日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,408,600	3,032,783
売掛金	2,485	4,809
原材料及び貯蔵品	164,772	150,322
預け金	55,622	36,301
その他	169,827	218,990
流動資産合計	3,801,308	3,443,208
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,091,342	987,252
その他(純額)	571,195	532,236
有形固定資産合計	1,662,538	1,519,488
無形固定資産	21,490	20,895
投資その他の資産		
敷金及び保証金	743,331	718,671
建設協力金	343,595	372,784
その他	305,448	265,865
貸倒引当金	1,078	1,078
投資その他の資産合計	1,391,297	1,356,243
固定資産合計	3,075,326	2,896,627
資産合計	6,876,635	6,339,836
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	858,051	893,283
短期借入金	330,000	120,000
未払金	690,059	792,764
未払法人税等	199,603	324,991
引当金		
賞与引当金	17,400	67,000
その他の引当金	18,213	17,412
引当金計	35,613	84,412
その他	217,571	174,832
流動負債合計	2,330,898	2,390,285
固定負債		
資産除去債務	152,267	-
長期未払金	359,700	359,700
その他	165,644	138,764
固定負債合計	677,611	498,464
負債合計	3,008,509	2,888,749

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年2月15日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月15日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	3,315,950	2,898,535
自己株式	560	176
株主資本合計	3,868,169	3,451,138
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	43	52
評価・換算差額等合計	43	52
純資産合計	3,868,125	3,451,086
負債純資産合計	6,876,635	6,339,836

(2)【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
売上高	12,148,561	13,230,645
売上原価	5,049,730	5,433,806
売上総利益	7,098,830	7,796,839
販売費及び一般管理費	6,334,100	6,910,165
営業利益	764,730	886,674
営業外収益		
受取利息	5,497	4,678
協賛金収入	17,245	18,772
その他	11,586	11,078
営業外収益合計	34,329	34,529
営業外費用		
支払利息	3,596	4,204
現金過不足	4,508	2,722
その他	877	510
営業外費用合計	8,982	7,437
経常利益	790,076	913,766
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	61,763
特別損失合計	-	61,763
税引前四半期純利益	790,076	852,003
法人税等	357,114	395,390
四半期純利益	432,962	456,612

【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成21年11月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年11月16日 至平成23年2月15日)
売上高	4,309,734	4,556,374
売上原価	1,791,175	1,865,716
売上総利益	2,518,558	2,690,658
販売費及び一般管理費	2,189,524	2,342,266
営業利益	329,034	348,391
営業外収益		
受取利息	1,756	1,455
協賛金収入	1,333	4,374
金券未使用益	4,163	1,485
その他	1,403	103
営業外収益合計	8,657	7,418
営業外費用		
支払利息	1,246	1,343
現金過不足	2,154	985
その他	34	485
営業外費用合計	3,436	2,814
経常利益	334,256	352,996
税引前四半期純利益	334,256	352,996
法人税等	151,083	163,288
四半期純利益	183,172	189,707

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	790,076	852,003
減価償却費	158,114	183,189
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	61,763
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	30,140	32,851
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,041	-
賞与引当金の増減額(は減少)	55,940	49,600
受取利息及び受取配当金	5,506	4,687
支払利息	3,596	4,204
売上債権の増減額(は増加)	4,500	2,324
たな卸資産の増減額(は増加)	31,448	14,450
仕入債務の増減額(は減少)	60,358	35,232
未払消費税等の増減額(は減少)	9,854	14,277
その他	51,212	10,708
小計	974,389	1,007,379
利息及び配当金の受取額	2,720	1,546
利息の支払額	3,670	4,221
法人税等の支払額	300,323	533,641
営業活動によるキャッシュ・フロー	673,116	471,063
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	413,029	413,715
定期預金の払戻による収入	411,712	413,029
有形固定資産の取得による支出	237,652	189,698
無形固定資産の取得による支出	4,183	2,233
長期前払費用の取得による支出	-	49
敷金及び保証金の差入による支出	36,070	49,000
敷金及び保証金の回収による収入	4,898	5,590
建設協力金の支払による支出	17,000	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	291,326	236,076
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	400,000	600,000
短期借入金の返済による支出	191,125	390,000
リース債務の返済による支出	21,221	30,466
自己株式の取得による支出	-	383
配当金の支払額	38,716	39,005
財務活動によるキャッシュ・フロー	148,937	140,143
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	530,727	375,130
現金及び現金同等物の期首残高	1,926,415	2,596,519
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,457,143	2,971,649

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ6,888千円減少し、税引前四半期純利益は68,651千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は142,598千円であります。</p>

【表示方法の変更】

	当第3四半期会計期間 (自平成22年11月16日 至平成23年2月15日)
(四半期貸借対照表)	
前第3四半期会計期間において、流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「預け金」は、質的重要性の観点から、第1四半期会計期間より区分掲記することとしました。なお、前第3四半期会計期間の流動資産の「その他」に含まれる「預け金」は45,348千円であります。	

【簡便な会計処理】

重要なものはありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
税金費用の計算方法	<p>税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。</p> <p>なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。</p>

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

当第3四半期会計期間末 (平成23年2月15日)	前事業年度末 (平成22年5月15日)
有形固定資産の減価償却累計額は1,206,483千円であります。	有形固定資産の減価償却累計額は1,032,905千円であります。

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
販売費及び一般管理費の主なもの	販売費及び一般管理費の主なもの
給料及び賞与 3,091,551千円	給料及び賞与 3,306,944千円
賞与引当金繰入額 18,180千円	賞与引当金繰入額 17,400千円
株主優待引当金繰入額 10,461千円	株主優待引当金繰入額 16,036千円

前第3四半期会計期間 (自平成21年11月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年11月16日 至平成23年2月15日)
販売費及び一般管理費の主なもの	販売費及び一般管理費の主なもの
給料及び賞与 1,104,069千円	給料及び賞与 1,198,904千円
賞与引当金繰入額 18,180千円	賞与引当金繰入額 17,400千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年2月15日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年2月15日現在)
現金及び預金 2,893,352千円	現金及び預金 3,408,600千円
預入期間が3か月を超える定期預金 436,208千円	預入期間が3か月を超える定期預金 436,950千円
現金及び現金同等物 2,457,143千円	現金及び現金同等物 2,971,649千円



(株主資本等関係)

当第3四半期会計期間末(平成23年2月15日)及び当第3四半期累計期間(自平成22年5月16日至平成23年2月15日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 2,903千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 0千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年8月5日 定時株主総会	普通株式	39,197	13.50	平成22年5月15日	平成22年8月6日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

5. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券は当社の事業の運営において重要なものでないため記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

記載すべき事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、グルメ回転寿司事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

記載すべき事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期会計期間末 (平成23年2月15日)		前事業年度末 (平成22年5月15日)	
1株当たり純資産額	1,332.29円	1株当たり純資産額	1,188.59円

2. 1株当たり四半期純利益金額

前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)		当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)	
1株当たり四半期純利益金額	149.12円	1株当たり四半期純利益金額	157.27円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成21年5月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成23年2月15日)
四半期純利益(千円)	432,962	456,612
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	432,962	456,612
期中平均株式数(千株)	2,903	2,903

前第3四半期会計期間 (自平成21年11月16日 至平成22年2月15日)		当第3四半期会計期間 (自平成22年11月16日 至平成23年2月15日)	
1株当たり四半期純利益金額	63.09円	1株当たり四半期純利益金額	65.34円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期会計期間 (自平成21年11月16日 至平成22年2月15日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年11月16日 至平成23年2月15日)
四半期純利益(千円)	183,172	189,707
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	183,172	189,707
期中平均株式数(千株)	2,903	2,903

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年5月15日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っておりますが、当第3四半期会計期間末におけるリース取引残高は前事業年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年3月30日

株式会社銚子丸  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 櫓 孝 次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高 橋 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銚子丸の平成21年5月16日から平成22年5月15日までの第33期事業年度の第3四半期会計期間（平成21年11月16日から平成22年2月15日まで）及び第3四半期累計期間（平成21年5月16日から平成22年2月15日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銚子丸の平成22年2月15日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年3月29日

株式会社銚子丸  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銚子丸の平成22年5月16日から平成23年5月15日までの第34期事業年度の第3四半期会計期間（平成22年11月16日から平成23年2月15日まで）及び第3四半期累計期間（平成22年5月16日から平成23年2月15日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銚子丸の平成23年2月15日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 追記情報

「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載されているとおり、会社は第1四半期会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。